

2学期がスタートしました。今後、ミニ授業研究会を含めた授業研究が本格化していきます。それに伴い、単元構想会も続々と行われています。児童生徒の成長を支えるために、より良い授業を目指していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

1学期の実践、夏休み中の全校研究会や研修会などを通して、全校として共通して取り組みたい事項、確認したい事項を以下にまとめました。授業づくりの指針としてご確認ください。

全校研究 共通実践事項

① 生活に即した活動を十分に取り入れ、 学んでいることの目的や意義が理解できる学習を展開しましょう。

新学習指導要領解説で教科別の指導の留意点として挙げられている項目です。教科の目標・内容を踏まえつつ、児童生徒の今の生活課題、将来の姿をしっかりと想定して授業づくりをしましょう。今回の授業で学んだことは本当に児童生徒の生活に必要なものですか？

また、今学んでいることがどのように自分の生活に結びつくのか、役に立つのかということを見ることが児童生徒が理解できるようにしましょう。そのためには、教師がそのことをしっかりとイメージし、授業を組み立てることが大切になります。学びの意味、意義を知ることには深い学びの実現、学びを生かすことにつながります。

② めあての工夫をしましょう。 ・何を学習するのかが分かる。(めざすゴールが分かる) ・ゴールに向けて、何をすれば(がんばれば)いいのかが分かる。 ・めあてに対するふりかえりを行う。

「今日は何をするのかな」という子どもの意欲を大切に、子どもたちが主体的に学ぶ授業づくりをするために、学習のめあてを工夫しましょう。分かりやすいめあてを示すことで、教師も子どもも1時間の授業でめざす姿をはっきりとイメージすることができます。

めあての提示は板書にこだわらず、児童生徒自身が理解できる方法で伝えることが大切です。また、実態差がある集団の場合は、全体のめあての他に、個別のめあてを示すことで授業への見通しをもたせることができます。

また、前時までの学習を基に児童生徒と一緒にめあてを決めるということも主体的な学びや学びを明確化することにつながります。

本時で何をするかを具体化しためあてを設定し、めあてについて振りかえることで、本時の学びやがんばりを自己評価することができます。振り返りを大切にしましょう。

③ 学び合いのある授業づくりをしましょう。

- ・話し合いが深まる手立ての工夫
- ・共同（協同、協働）場面の設定
- ・「自己との対話」を大切に

学校という集団で学ぶことの意味の一つとして、異なる考えや経験をもつ仲間が考えを交わすことで個人の考えや集団の考えが深められることがあると思います。お互いが認め合い、学び合いのある授業を目指しましょう。

日常会話など、話すことが上手に思える児童生徒であっても、話し合いを通して考えをまとめていくということは、抽象的な思考を伴うため、「話してはいるが、理解していない」場合があります。話す話題や話の要点などを付せんや短冊などに書き、分類して示すなどの工夫が効果的です。

言葉だけでなく、一緒に活動するときに息を合わせる、目線を交わす、笑顔や不快な表情などで思いを伝えるなどの非言語的なコミュニケーションや相手の活動の様子を見て自分の振る舞いを変えるなどの行動も対話につながり、学び合いが深まることが考えられます。児童生徒の実態を踏まえて、こうした場面を設定することもポイントになります。

学び合いというと「他者とのかかわり」に注目しがちですが、「自分の考えをもち、自分を見つめる」ことから始まります。これが「自己との対話」です。話し合う前に自分自身の考えや意見を整理しておくこと、過去の自分の考えなどを見えるようにしておくことも大事な工夫になります。

※昨年度、話し合いについての職員研修会を行いました（講師 阿部洋一前教頭先生）。その時の動画を H30 研究部>研修ビデオ に入れています。ご活用ください。

国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 清水 潤先生に本校の研究についての助言をいただきました。

今回の学習指導要領では、理念「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」をつなぎ、一体として実現するよう「カリキュラム・マネジメント」の視点が大事にされている。

今回の研究では「カリキュラム・マネジメント」の視点が明確でなかった。「様々な場面で学びを生かす」が側面の一つ「教科等横断的な視点」に関係するが、後から「生きる・つながる」よりは、先につながりを考えておくということが大事である。

例えば、高等部では家庭科を取り上げているが、職業科や作業学習との関連を中心に、各教科等との関連を考えておくことが大事である。特に作業学習の中心教科は職業科や家庭科などになり、横手支援学校では作業学習の時間が最も多いため、作業学習との関連を明確にすることは不可欠であろう。

「カリキュラム・マネジメント」の視点での教育課程の改善については、今後、全校で検討すべき課題であると思います。今年度、次年度の研究でもこの視点での取組を考えていきたいと思っています。